高退協ニュース

高知高退協
事務局
2003. 9. 9
No124

〒780-0850 高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目1-10
教育会館内高教組気付
TEL 088-822-1682
郵便振替口座 01650-1-118932

夏季学習講座開催

本年度の夏季学習講座が、八月二十七日午後二時から高知城ホールで開かれました。

会員の林勤さんの「相撲よもやま話」と今年新会員として事務局員になられた森下芳文さんの「日高産廃ストップの取り組み」。

林さんは、ニュース毎号の連載でおなじみですが、高知が大相撲でもアマチュアでも相撲王国であったこと、力士の収入、階級など、ご自分で丹念に調べられた豊富な資料を基に話されました。最後はうわてを取る攻防など、ご自分で型を示され、興味津津でした。

森下さんは日高村にお住まいで、ご自身が産廃反対に深くかかわって来られたので、資料も詳しく、予定地の危険性、県の場当たり政策、村議会の二転三転の混迷ぶりなどを資料を示して訴えられました。高知市などの水源に関係するだけに、高知市民などの動きが鈍いことを反省、反対運動を広げる必要を強く促されるものでした。

今回は、学習講座に三十四名、懇親会に二十八名と参加者が例年より少なかったことが残念でした。行事へ参加くださるようにご協力をお願いいたします。

県革新懇総会開く

七月十二日、高知城ホールに16市町村、6職場、10団体より102人が参加して、標記の総会がもたれました。

議長団に国松勝、神田明子の漁代表世話人を選出。栗原透常任代表世話人が開会あいさつをし、橋本知事、梅原須崎市長のメッセージに続き、高橋豊房常任代表世話人が「報告と提案」を行いました。

決算と予算案は、岡村豊昭事務局次長が、監査報告は野崎英明監査が行い、承認されました。

西土佐村革新懇の報告を皮切りに、各地の革新懇の活発な活動報告がありました。

今日の情勢の下で、平和・民主・革新の日本をめざす「革新懇」の果すべき役割の重大性と必要性が参加者一同で確認されました。

28人の代表世話人（うち10名が常任代表世話人）を選出。事務局長山崎治彦氏、同次長金子協輔、鎌田伸一、高橋豊房の各氏も選任されました。

議会を傍聴しましょう。

七月から八月にかけて、県内二つの事件が高知新聞で大きく報道されている。

その一つ―葉山村トンネル工事は、県内大手三社で構成する企業体が、測量ミスとセメントが規定の厚さに足りていない部分を隠ぺいして工事検査を受け、工事費・純県費二十二億余円をだまし取ろうとした事件である。県費詐取の上に、大惨事を起こしかねない、極めて悪質な事件である。

今一つは、県警が捜査費を虚偽申請して裏金を作り、それを慰労会に充てたとするものである。県議会でこの不正を追及されたが、県警本部長は「今後も捜査費での慰労会は続ける」と、全く開き直りである。また、八月二十六日高知新聞では「知事は、県警捜査費の調査には消極的」と報じられている。

何れも血税が不正に使われ、かつ、人命に係わる許せない問題である。にも拘らず、これらを審議する県議会常任委員会は「鋭く追及するのは大抵共産党議員だけ。傍聴者は殆どいない」という状態であり、委員会全体として県民を代表して怒るという空気が感じとれない。委員会に緊張感がない。

また、去る六月三十日高知市議会で、江口議員が九反田高架遊歩道の見直しを強く求めた時にも傍聴者は数名であった。これでは、市長に対するインパクトは弱い。

多くの傍聴者がいることは、住民の声を代表して発言する議員への支援となり、傍観している議員や執行部への圧力にもなると思われる。

高退協の皆さんは各分野で活動されており、多忙な方ばかりですが、折角送り出した議員を激励し、我々の要求の強さを示すために声をかけ合って、県、市町村議会や各種委員会を傍聴されるようお訴えしたい。

また、電話、葉書等による激励や要請も大切だと思います。（林　勤）

第12回全退教四ブロ交流会

日時1月10日（月）～11日（火）
場所かんぽの宿阿波池田（0883-74-0011）
参加費1万円
日程　受付10日（月）12：30
　開会　13：00
　全体会　13：10
　テーマ「仲間と共に豊かな生き方を」
　分散会　14：50～17：30
　懇親会　18：20～20：50
第2日目11日（火）
　朝食　7：00～
　全体会　8：30～10：00
　記念講演8：30～9：20
　「阿波池田白地かいわいについて」
　　大岩義雄氏（郷土史研究家）
　参加者の感想
　次県の挨拶（高知）
　閉会あいさつ
　散会　10：00
周辺観光地：白地温泉・池田高校その他
参加申込みは岡崎清恵（088-842-3747）

草声老語

八月四日のこと中国黒龍江省チチハル市の建設現場で旧日本軍が遺棄した金属容器が見つかりもれだした溶剤で四十三人が被災した。一人が死亡し五人が重症だという。

チチハル市は日本政府に現場処理費用、医療費などを要求しているが政府は、中国は戦争賠償請求権を放棄しているとして賠償請求に応じない方針らしい。日本国内でも旧日本軍の毒ガスが原因と見られる事故が神奈川県や茨城県で続発した。実に戦後五十八年目のことだ。

昨年十二月中国「残留孤児」六三七人が国家賠償訴訟を起こした。高知県でも十月頃四〇数人が提訴するらしい。最終的には全国で約二五〇〇人になるという。三度の棄民政策にあいかろうじて生きながらえた彼等の数奇な半生をつづった訴状添付の手記を読むとあらためて涙をさそわれる。

福岡では中国人四万人を拉致連行し強制労働をさせ七千人が死んだ事件の裁判がつづいている。これは一九四二年十一月の閣議決定に基づき国と企業体が共同実行したもの。昨年四月の福岡地裁判決（第一陣福岡訴訟）は被告企業の損害賠償責任を認め原告救済の画期的一歩を進めたが共同不法行為の当事者と認定された国の責任は認めていない。

第二陣訴訟においては国と企業の共同不法行為責任について明確な判断を示したうえで和解勧告あるいは判決でもって早期かつ全面解決されることが期待されている。

拉致問題で私がしっくりしないのはこの辺りにある。戦後処理問題に責任を持って対処してこそ解決への道が開けるように思う。（西込）

泰東寺残日録

坪井　幹之

教国の教育論

「高退協読書会」9月例会は「古風堂々数学者」を取り上げた。著者は藤原正彦氏でお茶の水女子大理学部教授、作家新田次郎・藤原ていの次男。処女作「若き数学者のアメリカ」でエッセイストクラブ賞を受賞。多くの随筆集を出している。専門の数学は勿論、留学したアメリカ、イギリスでの生活体験など多彩で面白い。文章はユーモアに溢れ、単純、明快な筆運びで、読み出したら止められない。なかでも独特の教育論は、発想もユニークで、教えられるところも多い。私がもっとも意気投合したところを極一部抜き書きしてみよう。

新カリキュラムに向けての論議が高まっている。小学校での最優先が国語と算数であることは論を俟たない。昔から読み書きそろばんと言われたが、そろばんを算数と解すれば、まさに古人の言う通りである。とりわけ国語の重要性は図抜けている。国語は、言語教育という要素にとどまらず、すべての思考および情緒の基盤となるからである。私の専門とする、言語には縁遠いと思われがちな数学でも、思考はイメージと言語の振り子運動と言ってよい。国語と情緒との関連はさらに重要である。日本人のアイデンティティーとも言うべきこの情緒は、文明が進み自然が壊され、無節操なアメリカ化の進展する中で、衰退の歩を速めている。小学校における国語の、質と量にまたがる飛躍的充実は、二十一世紀教育の要となるべきものと思う。

小学校教育課程での国語教育の重要性を説いたものだが、まったく同感である。このような論調で教育全般について主張を展開しているが、正論が多いと思う。ご一読を乞う。

会員の上田博昭さんから近況報告と共にビデオの紹介がありました。残された命をどう生きるかを考えさせられる『阿弥陀堂だより』素晴らしい作品です。お薦めします。

夏山の記

―遭難二歩手前

（詳細は次号）

今年の「山の会」八月例会は栃木県の那須連峰。梅雨明け早々、四日の日程で出掛けた。参加者十名。八月三日、JRで那須へ出発。高原再奥の大丸温泉に泊まる。

四日、ロープウエイで主峰の茶臼岳に登る。首都圏の奥座敷だけあって、朝から観光客が多い。山頂駅のロッカーに荷物を預けて、山腹をトラバース、南月山までの、花の遊歩道を往復、茶臼の三角点を目指す。火山体独特の砂礫で苦労。十二時過ぎ、噴煙の頂上に立つ。

峰の茶屋の分岐点で二班に分かれて、三斗小屋温泉に向かう。七名の組はガレ場を登って、峻険な朝日岳、熊見曽根、隠居倉の尾根を越えて温泉宿に入る。この三斗小屋は山のいで湯として有名、テレビで幾度となく紹介された秘湯。露天風呂に入った女性軍全員感嘆の声を上げる。「また来たいね！」と。

夜のミーチングで、翌日は六名と四名の二班に分かれて、最後の宿泊地甲子温泉に向かうことに決す。

五日、四名の健脚組は小雨の中、熊見曽根のシャクナゲの急坂から、湯原清水平の木道を経て、この山系の最高峰三本槍岳の頂上に登る。鏡ケ池との分岐から須立山の頂上を乗り越えて、急なガレ場を下る。次第に道は荒れ、藪こぎが増える。歩度は地図のコースタイムから次第に遅れる。やっと坊主沼の避難小屋に到達。半時間ほど仮睡。赤崩山の山腹を廻る。一段と道は荒れ、ザン場の急坂が連続、疲労が増す。そのうち、とある地点で地図に無い分岐に遭遇。迷った末、標識の多いコースを選択、必死で道を急いでいると林の中に小屋を見つける。なんとそれは仮睡した避難小屋ではないか。慌てて道を引き返す。前記の分岐点で決断。別の道を行って駄目なら野宿をして救援を待つことにした。ほどなく標識に出会う。地図にでている甲子山である。助かった。長い長い四十八曲がりの坂道を腑抜けのようになって温泉宿まで降りた。出発から十数時間を要していた。遭難一歩前とまでは言わないが、二歩前位の状況ではあった。那須の峰々は二千米足らずであるが、谷は深く、いたるところ火山独特の崩壊が進んでいる。わが国の七つの火山帯の一つ「那須火山帯」…小学校の地理で習った言葉の一切れが頭をかすめた。

歴教協大会千百人

三谷隆彦

歴史教育者協議会の全国大会が七月末から八月にかけて高知で開かれた。全国の小学中学高校の主として社会科の教員千百人が集まった。高知市や南国市の教育委員会の後援を得たが、参加者の大部分は自己負担で全国からやってきた。今日民間教育団体で千人を越える人を集めるのは困難であるが、高知大会は千人をはるかに越えた。成功出来たのも高退協の大きな協力があったからである。その協力というのは記念誌の編集、袋詰、全体会で特別報告、大会前後の現地見学、大会二日目夕べの地域に学ぶ集いなどで大きな任務をはたした。大会後愛媛県の河野真一氏とともに私は檮原町の龍馬脱藩の道から維新人物像の南伊予を案内した。参加者は二十四名であった。夕食で最高年齢福島県の香野氏に乾杯の音頭をお願いした。ところが同氏は酒を飲まない。飲まない人に音頭とりをお願いしたのは私の失敗である。同氏は七十七歳で教職歴はない。軍国主義教育のもとで育ったので、本当の歴史を知りたいと言って参加していた。

歴教協主催の東西ヨーロッパの旅に私は一九八五年に参加した。ソビエト、東西の壁のあるドイツ、ポーランド、ベルギイ、オランダ、フランス、イタリア、バチカンなど三週間の旅であった。特に印象深いのはポーランドのアウシュビッツとイタリアである。アウシュビッツにはナチスがユダヤ人四百万人を殺した刑務所が今も残っている。世界最大の殺人工場である。今年の夏ポーランドへ行った小泉総理もこの刑務所へ行けばミレルはずだったのに。ローマにはいたるところに史跡がある。二千年昔の大浴場もある。その当時は混浴であったそうである。昔の人はヨクジョウを催さなかったであろうか。

スキー研修・親睦案内

主催：高退協スキークラブ

日程：2004・2・3（火）～2・6（金）
3泊4日

場所：安比高原スキー場（岩手県松尾村）

宿泊：安比高原内ホテル

募集定員：20名

費用：大人約7万～8万円

申し込みその他については次号をご覧下さい。
東北のリゾート地でのスキーです！！

陶彫人・音・あかり

町田祐一

8月に、高知市民文化プラザ「かるぽーと」で、町田祐一さんの個展が開かれた。町田さんは、職美展・グループ8月展・平和美術展・フラクタル21展に毎年出品している。個展初日、西高校の卒業生が熱心に鑑賞し、恩師の作品を前に歓談していた。

03年　高校・障害児学校教研集会

平和の中で学びあい、育ちあうよろこび

10月25日（土）　13時～17時

教科別分科会

26日（日）　10時～17時

課題別分科会・講演

講演　佐藤和子さん（東京大学）

～子どもが育つ地域社会と「土佐の教育改革」

場所　高知工業高校

年金改悪・大増税をぶっとばそう！

10・4　県民大集会

（土）　午後1時～6時

集会　5時～6時

場所　高知市・中央公園

主催　高知県労連・国民大運動県実委

8・15平和を願う県民のつどい

有事法制の発動を許さない！8・15平和を願う県民の集いが、一〇〇余名の参加で、高知城ホールで開かれました。高退協の窪田充治さんが、「戦争遺跡から平和を考える」と題して講演を行ないました。

二人の決意表明があり、岡崎清恵さんが、閉会あいさつをしました。

今年は参加目標を150と決めましたが、達成できませんでした。高退協からは10名（退婦協などを含む）の参加にとどまりました。

大島青松園訪問

小島　真子

大島青松園へ行ってきた。子どもの頃「小島の春」を読み、近年はハンセン病患者国家賠償訴訟原告団の会長・曽我野さんの話を聞き、一度現地を訪ねたいと思っていたところ、県の健康対策課主催の療養所訪問があったのである。60人は乗れる大型バスに参加者8名・係員2名という少人数だった。大島までは一日4便・官有船が往復するが船に乗っていたのは入所者らしい二人の方と私達だけだった。

はじめに、医師でもある所長から概況説明があった。ハンセン病は感染力が非常に弱く、昭和23年に合成されたプロミン等の投与で完治する病気でありながら、社会の偏見と国の政策によって90年もの間、隔離され続けて来た。午後からは、高知県出身者との話し合いだった。強制収容され、そのまま数十年をこの島に閉じこめられて生きてきた方々である。遺伝と誤解され家族まで迫害されて、里帰りもままならなかった方々である。偶然、私と同年だった自治会副会長の野村さんなど16才でここに連れてこられその日から5人の重症患者の世話をさせられた。ほとんど自給自足の生活で、農耕・飼育・土木建築・火葬までもが患者の仕事で、知覚障害のため痛さがわからず、火傷や指の切断など事故が絶えなかった。当時、医師や看護婦はホルマリンで茶色に変色した白衣（？）に身を固め、薬は台の上に置いたそうである。

今、園内でそういうことはないが、島外での買物の際など後遺症で気付かれてお金の手渡しを拒まれることも多いそうである。運悪くたまたま感染したために、治ってからもなお偏見と差別の中で生きなければならない方々を前にして、人生の不公平さに言葉を失った。

185名の入所者のうち、高知県出身者は40名もいるのに訪問者は少ないそうである。徳島県からは訪問客が多く、愛媛県では里帰りの時、お寺が泊めてくれるという話に高知の人間として恥ずかしさを覚えた。

副会長の案内で園内を見て回る。真夏の午後ということもあるが、広い敷地内に入所者はおろか職員の姿も見えず、この島で一生を終える方の気持ちを想像して胸が詰まった。自然石を集めて形づくった、“風の舞”と名付けられた納骨の塔は、「せめて死後の魂は風に乗って島を離れ、自由に解き放たれますように」との願いが込められている。

私達はふだん、自分が差別されていないということに安んじて、マイノリティに属する人達への差別・人権侵害を見逃しがちなのではないかと思う。他人の人権に無関心だということは、いつか自分が当事者になった時、誰にも理解されず、助けてももらえないことにつながる。元患者の方達が国に賠償責任を問い、国は控訴しないと決定した。勇気をふるって人前に立ち、国を訴えた被害者代表、そしてそれを支えた人々の努力によって、少しだけ社会が進んだ。

＊＊＊

私の属するアムネスティ・インターナショナルは、平和を考える市民セミナーと共催で刑務所における人権侵害を取り上げ、講演会を開く予定です。

・時　10月25日（土）14～16時

・所　高知会館

多数のご参加を期待しています。

山原記念館ニュース創刊号

山原健二郎記念準備資料室が開かれ、創刊号が発行されました。

高退協の幸便にて、お届けします。

趣旨や経過や今後の方針が記載されています。ご意見やご感想等どしどしお寄せ下さるようお願いします。

私たちの健康法　ラケットのいらないテニス

私は停年退職後の生活設計を模索していたとき、かっての職場の僚友からテニスの誘いがあり、二つ返事で始めて以来、十年余りになった。野球と違って、面の広いラケットで球を打つのだから、事は簡単であると思って始めたものゝ、そうは問屋が卸さなかった。

私の場合、年令の壁と生来の脳細胞の質の悪さが災して、無限の可能性を持ったまゝ、いまだに開花する気配がない。そのため、下手なプレイが、周囲に笑いの種をふり撒くことになり、汗をかくだけでなく恥までかいている。

あっ、来た！と思って思いきり振ったスマッシュが空振り、いわゆる真空切りになったときのバツの悪さとみじめさ、すかさず「ラケットはいらんぞ」と野次の追い打ちに至っては、穴を掘ってでも入りたい心境になる。それでも試合中に素振りの練習をする仲間も現れて、落ち込を癒してくれるから助かるが、困るのはカウントを間違えることである。

四人がそれぞれペアを組んでやっているから、一人ぐらいまともな人間がいても、おかしくないはずであるが、それがどうもうまくいかない。しかし、いくらもめても喧嘩にまで発展することは、まずない、自らの老化を確認し合うことでけりがつく。悲喜こもごも、人生のあやを、かもし出しながら、ラケットのいらないテニスを楽しんでいる。これが心身をリフレッシュさせる私達の最高の健康法になっている。　鎌倉和男

川柳

雑樹集　其の一

―雑踏・余白・残照―

小澤幸泉

空白は残さぬように書く日記

不況でもざわめきがる昼下がり

死ぬ事を忘れて独り病んでいる

老い猫よおまえ二人の朝が来る

国家には不要寿命がまた伸びる

老眼鏡

蒼き狼（井上靖著）の魅力

「蒼き狼は」アジアの生んだ一代の英雄鉄木真人（テムジン）・成吉思汗（ジンギスカン―モンゴルの主権者としての名称）の生涯を描いたものである。

彼は一一六二年にエスガイとよばれる父、ホエルンとよばれる母のあいだに生まれ、遊牧民の一部族の長として、他民族とのはげしい闘争をくり返し、やがて全蒙古を統一してから、金国や、さらに欧州までに及ぶ大遠征をこころみる。そしてジンギスカンが六五歳で歿するまでの全過程が克明に描かれている。

こうした歴史を描くとき、気ままな空想や感傷におちいりがちなものだが、井上氏はそのような弱点に流されることなく、むしろ井上氏の節度ある作風はその作品を堅固なものにしている。この作品には印象の深い場面がたくさんあるが、その一つ、彼と妻（忽闌）とのあいだに生まれた幼児ガウランを戦場に伴って出かけ万里の長城を越えて全国を征服しつつあるとき、この幼児を誰のものとも知らずに人手に渡してしまう。一種の捨て子だが、つまりモンゴルの狼となるためには、この幼児が無名のままに誰かによって育てられ全くの自力で強くなることを期待した行為であった。是非ご一読を……。

「声が聞こえる」…

町田祐一先生の焼き物展で

山本景子

楽しみにして待っていた祐一先生の焼物展「人・音・あかり」とても素晴らしかった。

数年前、火災にあってそれ迄の作品を焼失したのはとても残念ですが、それでもめげず再出発されたご夫妻の力強い生き方に感動します。

口を開いた人の立像は大好きな作品群です。高い天井に向かってそれぞれの立像が声を出しあって合唱している、調和の取れた合唱曲を歌っている、そんな感動を受けました。

会場の中程に並べられた作品の大小様々のタイコも澄んだ音色を出します。タイコを打てば立像たちが声を出しつつ動くのではないか、私も立像の一つになり声を出し動いてみたい、そんな、衝動にかられました。

照明の焼物デザインも大好きになり、「これ一つ欲しいなあ」などと、つい我欲の固まりの目で作品を追っかけている卑しい自分もおりました。また出会ってみたい作品展でした。もの静かな祐一先生から次に新たに産まれるテーマは何でしょうか。私たちの声を代弁してくれるような口を開いた人の立像が次々と立っていく、このような未来を私は思い描いております。町田先生ありがとうございました。

活動日誌

【7月】
5日　原水爆禁止平和行進　高知市到着　結集会
8日　高退協事務局会
12日　北川良吉さんの葬儀
17日山原事務所大掃除
18日　高校教研実行委員会
20日　県教研実行委員会
「心のノート」講演会
22日　イラク特措法案反対集会
24日　同緊急抗議集会
26日　自衛隊誘致を問うシンポジウム
29日　永吉海心さん葬儀
歴教協全国大会準備作業
30日　歴教協全国大会プレ集会
31日　歴教協全国大会全体会

【8月】
1日　同大会
2日　同大会
4日　山原事務所整理作業
5日　高校教研実行委員会
12日　高退協事務局会
17日　映画(住井すえ百歳人間宣言)
18日　山原事務所整理作業
27日　高退協夏季学習講座

短歌

八月九日長崎原爆忌　榊原忠彦

盲つつ苦難の末に奈良へ来し和上が撫づる唐よりの鴟尾

（前進座公演「天平の甍」）

小さけど書庫新築の槌の音聞けばうれしも生くべしと思ふ

「平和への誓ひ」を手話で、新聞のトップを飾るろうあ被爆者

（長崎市「原爆犠牲者平和記念式典」で山崎栄子さん）

太陽の夏　叶岡淑子

世紀越え烽火かかげて今なおも我らが先達われらが太陽

仏桑華・デイゴの花は紅く燃え君誕生の八月来たる

われもまた残生見詰め　ひたぶるに太陽の夏いのち刻まん

空下の風　山本晶子

晴れわたる空下の風さはやかになりて秋にぞ季は向かへる

丸一日草ひきたればアスパラもゴーヤーも姿よくなりて立つ

夫と吾の墓石の赤き文字著しここに眠るも安けくあらむ

俳句

大野見村・源流の家・合同句碑　合田青幹

源流の水澄む師の句懐かしむ

あはひ良き十一の句碑みな涼し

田所たねを

せせらぎと蜩の声これ浄土

大野見の村の名が好き青野好き

吉本伸秋

師弟句碑涼しき絆結ぶ風

猪垣のここに廃れて独活の花

中内みち代

朝涼の句碑に再会一と日行

かなかなに啼き包まれて宿に入る

小笠原さちを

訪ね入る源流すでに秋の蝉

病葉を追う影も又流さるる

訃報

会員の北川良吉さんが急逝され七月十二日葬儀がありました。永吉海心さんが長期入院治療の後ご逝去、二十九日葬儀がありました。小川和俊さんが長期闘病の後八月二十八日ご逝去、謹んでご冥福をお祈りします。

親睦会ご案内

もっと詳しい案内を同封

1　温泉昼食会（新企画）
期日　10月22日(水)
行き先　吉井勇記念館
夢の温泉
歴史民俗資料館
費用　4000円

2　親睦旅行
期日　11月5日（水）
6日（木）
行き先　武蔵の里
湯村温泉
出石町家並
生野銀山
費用　33000円

機関誌「こうたいきょう」No.24 原稿募集

○随想・短歌・俳句・川柳・詩など
○2000字まで、多少のオーバーOK
○10月末日原稿締切り
○12月末発行予定
○お気軽にご応募下さい
○ハガキでの「近況報告」にご協力を！

原稿送り先は　高知市横浜西町7－3
岡﨑清恵